

会議・打合せ記録

NO.1

会議録	第5回 豊田市公共交通会議
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 主催者あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 規約の変更について (2) 前年度の検討結果及び今年度の検討事項について (3) 基幹公共交通社会実験の概要について (4) 端末交通・交通結節点・利用促進策の検討方針について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第6回豊田市公共交通会議の開催日程について 6. 閉会
日時	平成18年5月31日(水) 10:30~12:00
場所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室
出席者	<p>【委員】 荻野 弘(豊田工業高等専門学校)</p> <p>藪押 光市(豊田商工会議所)</p> <p>野田 宏治(豊田工業高等専門学校)</p> <p>山本 慎治(豊田市区長会)</p> <p>正木 恒男(豊田市老人クラブ連合会)</p> <p>新田 都子(豊田市消費者グループ連絡会)</p> <p>安藤 寿昭(豊田市PTA連絡協議会推薦)</p> <p>梶原雅一郎(愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>鈴木 和洋(名鉄バス株式会社)</p> <p>岸本 康典(愛知県タクシー協会豊田支部)</p> <p>田中 昇(国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)</p> <p>福本 充(国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所)</p> <p>下尾 強(愛知県警察豊田警察署交通課)</p> <p>鈴木 實(愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課)</p> <p>大山 明夫(愛知県豊田加茂建設事務所足助支所)</p> <p>小野田武文(豊田市都市整備部)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 資料1: 豊田市公共交通会議 規約 3. 資料2: 豊田市公共交通会議 第5回会議資料 4. 資料3: 豊田・三好1次交通圏計画【中間報告概要】

議事
概要

- (委員) 広域交通アクセスに関する課題が挙げられているが、それに対する将来像や展開について記されていない。例えば、名古屋への鉄道交通等についても議論する必要がある。また、地下鉄の延伸計画は現在も有効なのか。
- (事務局) 重要な論点であり、本計画の中でも鉄道に関する提案を行なって生きたい。しかし、市単独では具体的に施策を立案することができないので、今後も関係者と検討、調整していきたい。名古屋市営地下鉄 6 号線の延伸計画は交通審議会の答申で示され、構想として現在も存在すると思われるが、具体的な動向については市としては把握していない。
- (委員) 住民等・行政・交通事業者の各主体が協力して公共交通を支えていくという図式が示されているが、協力にも限界があり、主体間の均衡が保てなくなる場合もありうる。例えば、行政が積極的な支援をしても乗客数が伸びないなどの問題が顕在化したときにどうするのか。
- (事務局) 評価会議の設置を検討しており、評価指標を作成し、各路線を定期的に評価していく。
- (委員) 資料中の末端交通に関する検討が、基幹交通に比べてやや少ないが、今後を検討していくのか。
- (事務局) 末端交通については基幹交通と平行して、各地区単位を基本として具体的な検討を行う。
- (委員) 料金実験対象路線のさなげ足助バスについては、実態として乗客のほとんどが高校生である。そのため、運賃を下げることで乗客増につながるか疑問である。乗客層について把握しているのか。
- (事務局) 平成 17 年度に「バス利用者アンケート」を実施しており、乗客の実態についてはある程度把握している。本実験は、運賃の変化による利用者意識の変化、及び自動車利用からの転換による乗客数の変化の把握も目的としている。
- (委員) 社会実験の広報に関して、通勤客を掘り起こすことを念頭においているのであれば、広報対象範囲を路線沿線 500m とするのはやや狭いのではないか。バス停近くまで自家用車で来る乗客も考えられる。
- (事務局) 実験周知チラシの配布は、500m 範囲に含まれる自治区を対象とするため、単純に 500m というのではないが、より広範囲に広報したい。
- (委員) 足助だけでなく、旭・稲武地区でも利用者が見込まれるのではないだろうか。周知不足にならないようにすべき。
- (事務局) 学生や P T A に対しても、効果的に周知することが重要であると考えている。
- (委員) 実験によって運賃が変更されることになるが、利用者の混乱を最小限に留められるようにしてほしい。定期券の価格設定など、利用するかしないかに大きく影響するような部分については早めに公表してほしい。
- (事務局) できる限り早く公表したい。車内での掲示・運転手による呼びかけなどの広報策についても、事業者と協力して実施したい。
- (委員) 運行本数実験対象路線の名鉄バス藤岡線のダイヤは決定事項なのか。学生が重要な乗客であり、夕方 1 時間に 2 本走らせる時間帯が 17 ~ 18 時台までというのは短いのではないか。
- (事務局) 今回の資料に示した藤岡線のダイヤは、あくまで「仮」であり決定していない。今後、事業者等とも調整し、効果的なダイヤ設定をしていきたい。
- (委員) 交通結節点整備について、整備方針を少し詳しく説明してほしい。
- (事務局) 効果的かつ整備可能性の高い施策から展開していく方向で考えており、公共・商業施設と一体的な交通結節点整備という長期的な視点でも検討していく。
- (委員) 藤岡線の実験内容検討の参考資料として、時間帯別の移動量(トリップ数)が示されているが、OD(出発地・到着地)を考慮してネットワークを検討する必要がある。

議事概要	<p>(委員)再度になるが、広域交通についても今後示していけると良い。またパンフレットや資料等は、一般の市民が読むことを念頭に分かりやすい表現を使用してほしい。</p> <p>(事務局)豊田・三好1次交通圏以外の交通圏との連携については、長期的な視点で検討したい。またパンフレットの表現については、今後さらに分かりやすくするよう努める。</p> <p>(委員)実験による乗客数は、どのくらいを目標に考えているか。</p> <p>(事務局)数値目標として具体的に掲げていないが、事務局としては現状の1割増を目標として考えている。</p> <p>(委員)実験結果を受けて、価格弾力性についてもチェックしてほしい。また実験中のアンケートの取り方についても工夫してほしい。</p> <p>その他</p> <p>(事務局)次回の第6回豊田市公共交通会議については、8月23日13:15から開催予定である。</p> <p>【問い合わせ先等】</p> <p>豊田市 都市整備部 交通政策課 公共交通計画担当 電 話 : (0 5 6 5) 3 4 - 6 6 0 3 F A X : (0 5 6 5) 3 3 - 2 4 3 3 e-mail : koutsu@city.toyota.aichi.jp</p>
------	---